

## 縄文集落研究の新地平の15年 討議内容

2010/3/13 No1 小林謙一「縄文住居調査学史」

### • 新地平グループ・セツルメント研究会

ドット記録・遺構間接情報を有効活用し、住居のライフサイクルと合わせ集落の一次的景観から集落動態を復元する。

新地平シンボ1(15年)~4→環状集落形成過程の解明を目指した新地平5を行う準備  
セツルメント研究会1(11年) 大橋遺跡の再検討 ~セツルメント研究6号

### • 歴博共同研究「定住化過程の復元」

縄紋中期集落に関して、集落情報を集成し、集落のライフサイクルを解明しようとするケ-スタディを増やす。炭素14年代測定研究の応用。2006年度より3年間  
東京都縄文集落データベース nihuONE などの成果。  
<http://nihuone.nihu.jp/nihu/DBSearchResultCancelForm.do?type=logout>  
→来年度に歴博研究報告に、縄文集落研究の現状を提示したい。

小林謙一(学史的整理)・中山真治(調査史)・黒尾和久(集落論の展望)と、  
地域における実践と課題を事例報告とし、討論(宇佐美哲也)により、15年を総括する。

## 住居調査学史を学ぶ(今回の目的)

- なぜ、ドット記録や一時的集落景観把握は嫌われるのか?
- 学史的に位置づけよう  
遺跡調査法,住居認識,縄紋研究,集落研究

- 今回は縄紋のセクション把握・ドット記録と 縄紋集落研究の流れの接点を簡単に。

(水洗選別微細遺物回収,年代測定等自然科学分析は除外)

- 全点ドット・ライフサイクルの新地平派(14(は別)はどこからきてどこへいくのか?)を考え、わかりやすくし、みなさんにお勧めできるようにする。

- 原点を確認し、環状集落形成過程にアプローチしていく経過点とする。

## 私の調査史

- 細田遺跡・向原遺跡・九年橋遺跡・伊予子貝塚など参加
- 1981-早川天神森 1983 ドット無し 層位別・数量把握 神奈川県  
1981年学部2年調査 4年報告 岡本孝之、桜井準也
- 1982-受け地たいやま 1986 地区内全点ドット 調査団  
1981学部時代調査・82-84(院生)整理 五十嵐彰、奈良貴史
- 1987-新井三丁目遺跡1989 遺構内ドット・弥生集落 調査団 佐々木藤雄
- 町田市三矢田遺跡1990-1991 加曽利E1時期の小規模集落  
全点ドット・遺構間接 調査団 重久淳一
- 1989-SFC 1991・1992 全点ドット光波測定器 慶應 小規模集落群 岡本、桜井、大内  
(1994 考古学協会 ライフサイクル論)  
(1995 新地平シンボ)
- 1992-大橋 1997・1998 全点ドット 調査会主任 典型的中期集落 両角、大野、建石、大内
- 1998-石川県角間 近世以外全点ドット 金沢大 縄文包含層・平安山岳寺院  
(1999セツルメント研究 大橋遺跡の研究 フェイズ設定)  
(2004 縄文社会研究の新視点 炭素14年代の利用)
- 2006・2007福島県井出上ノ原 全点ドット・年代 歴博 主体的調査(学術) 大綱
- (2008 新地平4・考古学リダー 集落・住居調査のリサーチデザイン)
- 2008~相模原市大日野原遺跡全点ドット・年代 中央大 主体的調査(学術)

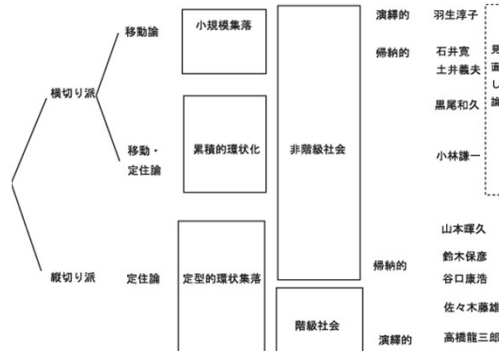


表1 関東縄紋中期に関わる集落研究者の類型

弥生時代の考古学1巻(同成社)  
小林論文より(2009年)

## 縄文住居調査方法史

- 貝塚調査から断面→トレンチからベルトへ(1960年頃)
- 上下層の区分(山内清男1936)
- 廃棄論(1960年代末) 層位との関係
- 原位置論(1960年代末) ドット 旧石器の調査から  
1970年代はじめ 十字ベルト一般化・ドット記録
- 1980年代 大規模発掘増加。  
セクションは定着。ドットは無理化。  
パターン論は精算され吹上パターンのみ廃棄論へ
- 1990年代 集落研究の二極分化(→景観の考古学)。  
機器の発達。発掘の効率化が喧伝される。
- 2000年代 新地平派は隔離されちやいました。

## パターン論・廃棄論

1981小林謙一(学部2年)

セツルメントにおける	土器の状況	土器の量	出土状況	集落のタイプ	パターン
空堀り及び空堀りなし(掘削位置)	大量の輪あり	多数	掘削位置に土器	環状集落	パターンA (環状)
空堀りなし(掘削位置)	少量	少数	掘削位置に土器	環状集落	パターンB (環状)
空堀りなし(掘削位置)	大量	多数	掘削位置に土器	環状集落	パターンC (環状)
空堀りなし(掘削位置)	少量	少数	掘削位置に土器	環状集落	パターンD (環状)
空堀りなし(掘削位置)	大量	多数	掘削位置に土器	環状集落	パターンE (環状)
空堀りなし(掘削位置)	少量	少数	掘削位置に土器	環状集落	パターンF (環状)

小林達雄1974

パターン→廃棄→季節性・セツルメントパターン







### SFC 旧石器の集中 五十嵐彰1991

第201図 高尾山以外の石器類、埋蔵量、伊豆・相模圏高尾山石器類分布図(1)

### 遺構間接合

はらやま1993  
黒尾・宇佐美・金子  
1989/9-1991/4調査

八王子市神谷原  
II 1982  
1976-1980調査  
新藤康夫・藤野修一

天祖神社東  
1986練馬区  
1983/12-1985/3調査  
黒尾・前地ひろみ・石井浩己

和田百草  
1983

黒尾1988居住形態・2009同成社

① 神谷原遺跡 (中期中葉) 50m

② 天祖神社東遺跡 (中期中葉) 50m

③ 和田・百草遺跡群 (中期中葉) 50m

図5 各居層土間に於ける土器結合状況  
図中にも併せて示したように、土器結合の  
形式で「同時期」の住居であっても各層  
住居間に居住層相違が認められる。

第12図 石谷SFC遺跡(住居・貯蔵土器・竈・竈跡)の平面図

第13図 石谷SFC遺跡(住居・貯蔵土器・竈跡)の平面図

### 小金井市栗山1975紀野自由 ・土井義夫、遺構間接合

### 武蔵村山市吉祥山2次3次 橋口尚武1979.1980

4住→7住→5住(加E)流れ込み  
(他例知らない)

3住と1住

7住埋設

5住覆土上部

4住覆土

第10図 3号住居遺跡を中心とする居住層相違関係図(4) (注:図4・7・8)

第11図 吉祥山遺跡(1/100)

### 自由学園南1983伊藤恒彦・成瀬晃司・菅沢ふみよ 遺構間接合

12号住居址跡

22号住居址覆土出土

第122図 遺構間・アトフCに於ける結合状況

22住で石皿→12住の炉石に

### 新地平派以外の検討

### 埼玉県北遺跡1987金子直行

12住覆土へ廃棄→8号住炉構築(すべて加E1)  
→13住炉内破片

金子直行・田中英二・浜野一重・屋間孝・西口正純  
1981調査

### 奈良忠寿 自由学園南 セツ研6 2007より

第123図 遺構間・アトフCに於ける結合状況

### 遺構間接合・遺跡間接合

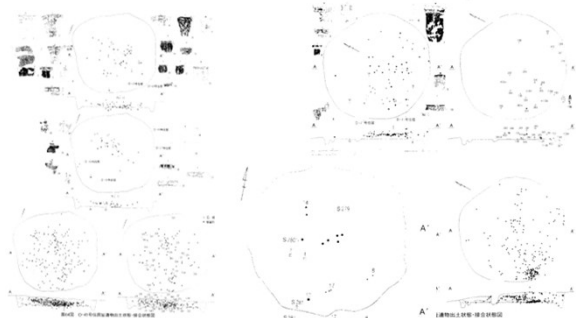
### 新地平2 1998/10

塚本師也 栃木県品川台

山本孝司 多摩ニュー-No245.248

## 宮添 1997

41住覆土中の復元可能土器 1986/3-1991/4・1993/6調査 碓井三子・杉本靖子



宮添41-49-27住の土器接合

27住床の10番が接合

表 竪穴住居の調査史略年報(関東地方縄紋時代中心)

住居断面調査・認識	住居自体に関する調査・研究	調査論
1902 蒔田槍次郎	1908 マンロー 三沢貝塚 1924 朝日貝塚住居調査	
1927 八幡ほか 1929 伊東・山内 1937 酒話・芹沢 1938 和島誠一 1939 酒話・和島 1955 和島誠一 1960 和島誠一	純山貝塚 上本郷貝塚 荒立台上 志村 水子 南堀 清水天王山	1938 関野克 福岡村前期住居 1948 和島誠一 原始聚落の構成 1955 塚田光 南堀遺跡の調査
1966 関俊彦他 1966 江森正義他 1968 江森正義他 1968 キーリー 1969 可児通宏	本町田 中峠4次 中峠6次 ICU構内 多摩ニュー	1965 藤森栄一 井戸尻 1965 小林達雄 米島貝塚
1971 関俊彦他 1971 土井義夫 1974 小田静夫 1974 安孫子昭二 1975 小田静夫 1975 土井義夫	潮見台 中山谷 平山橋 貫井南 中山谷 栗山	

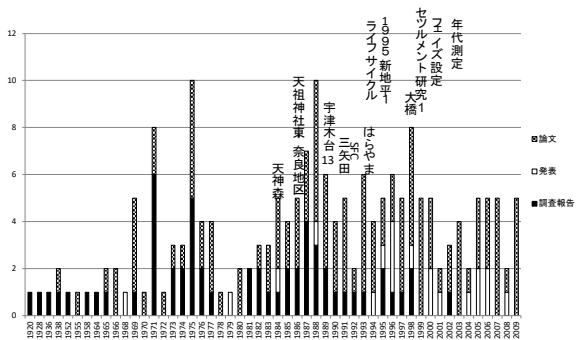
←小林達雄1968協会発表

←麻生優1969原位置論序説  
←水野正好1969水野集落論  
←麻生優1971十三番提遺跡  
←小林達雄1973セトルメント  
←小林達雄1974国史学93  
←麻生優1975原位置論意義

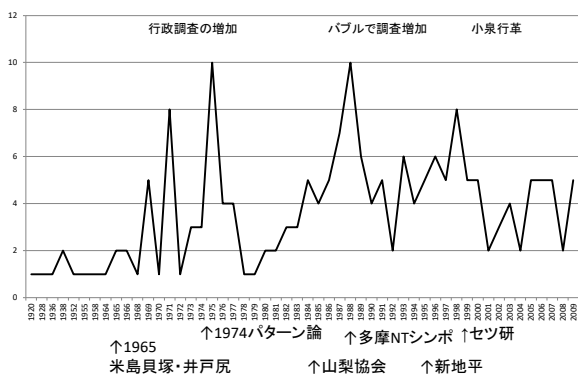
註: 報告書・概報・論考の刊行年を基準とするが、中峠遺跡など報告の刊行が隔たっているものなど一部は調査年。

小林2003より

## 住居調査に関する論文・発表・調査



## 住居調査に関する論文・発表・報告の数



## まとめ

- 学史的流れ (住居調査史)
- 居住サイクル → ライフサイクル
- 廃棄論 → 集落論
- ドット調査 → 一時とぎれかかっただけ
- 縄紋集落論 帰納的アプローチと演繹的アプローチ
- 新地平派も新しい考えではなく、伝統的考古学の正統的な継承。環状集落論は、モデルを提示しただけ。

住居セクション・全点ドット記録は最低限の記録保存であり、集落研究のベシクである。

## 住居調査史の参考文献

- 桐生直彦1987 竪穴住居址を中心とした遺物出土状態の分類について—研究史の整理 東国史論2
- 土井義夫・黒尾和久1999 調査方法論 遺物の出土状態と出土分布論—廃棄パターン論・原位置論以後 縄文時代10
- 小林謙一2000 重複住居の研究 異貌18
- 小林謙一2003 縄文竪穴住居調査史の一断面 下総考古17
- 泉拓良2006 縄文時代集落研究の課題 史林89-1
- 小林謙一2009 日本縄文集落遺跡における竪穴住居跡調査研究史と課題 聚落研究1